

ここ登別で保育士として働き始めてはや1年。ふるさとである宮城県を離れての北海道生活も、あつという間に3年がたとうとしています。

北海道独特ののんびりとした雰囲気と人の温かさが大好きです。

わたしが勤務する『コロボックルの森』は、幼稚園と保育所が一つになって保育が行われています。平成17年7月、幼保一元化を行う総合施設としてスタートしました。これまでの幼稚園・保育所という枠から離れ、子どもたちのために新しい空間を創つくっていきこうと一人ひとりの職員が頑張ってきました。

日々の保育形態、行事への取り組み方、保護者の皆さんとのかわり方などすべてが初めての連続。この取り組みに自分はどうのような役割を果たしていけばよいのか悩んだこともありました。

しかし、何の隔たりもなく笑い合う子どもたちの姿に気付いた時、『何も難しいことはない。この笑顔が守られる場所をつくってあげばよいのだ』という思いがわたしの中に生まれました。

先に述べた通り、一つ一つが新しい試みだったことでまさに手探り状態の1年でしたが、それ故に自身の詰まった忘れられない1年となりました。

念願の保育士になることが出来た2005年。社会に出て働くことの

難しさ、厳しさはもちろん感じますが、それ以上に子どもたちと笑い合える毎日に幸せを感じています。

また、短大の時とは一味も二味も違う、慣れない土地で生活することの寂しさも味わいました。ですが、それを承知で北海道に残ることを決めたのはわたし自身です。何かと気遣ってくれる同僚の先生や登別で出来た新しい友だち、離れていてもこそという時の励みになってくれる家族、そして大好きな子どもたち。わたしの存在を認めてくれる人たちがいること、決して一人ではないことを忘れずに、泣いて笑って新しい1年を楽しく・明るく・前向きに過ごしていきたいと思います。



ぷたぷたのくらむに参加して

三浦忠夫さん

(香風美化グループ代表) わが町会会の区域には、富士通、西

通の街路が2本と新川公園、幌別川築堤などの公共施設があり、毎年春秋実施のクリーン作戦に参加し清掃活動を行っています。

しかし、年2回だけでは街路樹ますの除草や対象施設のごみ拾いなど、その清掃効果が表れにくく、特に、せつかく移植した街路樹ますの花の苗も雑草に負けてしまうので、シーズン中何度か除草を行うのが常であります。

そんな矢先の『アダプトプログラム』制度の発足。早速、会員の同意を得て『香風美化グループ』と称し登録をしました。

活動は、毎月第2土曜日の午前9時からと決め、クリーン作戦同様の作業内容で行っており、毎回20数人の参加協力が得られています。

常々感じるのですが、道路や公園など公共の場へのポイ捨てごみの何と多いことが。たばこの吸い殻、紙くず、エンピ系の飛散ごみ。また、河川築堤内外の雑草の中には、空き瓶や缶、ペットボトル、袋に入ったコンビニ弁当の容器、自転車、家電系の家庭ごみ、変わり種ではペットのふん入りビニール袋まで。さらに、公園トイレの手洗い器には、紙おむつの放棄まで、実にさまざまな物が捨てられています。

また、公園の遊具やベンチ、看板類などへのいたずらによる器物破損行為など目に余るものがあります。

心無き限られた人たちの仕事とはいえ、公衆道徳の貧困さに愁いを感じます。

だが、この1年を振り返ると、毎月継続することの意義とその効果は大いにありと手応えを感じています。参加者も少しずつですが増えつつあります。

『きれいな場所にごみは似合わず』の心境か？まだ、始まったばかりで、ほかの地域との連携のない個々地域の活動で終わっているが、この輪が線の活動に、そしてやがては面の活動に発展するならば、文字通り『ごみのないまち』『観光のまち』『環境にやさしい快適のほりべつ』実現につながるものと願いつつ地域でアダプトプログラムに取り組んでいます。

